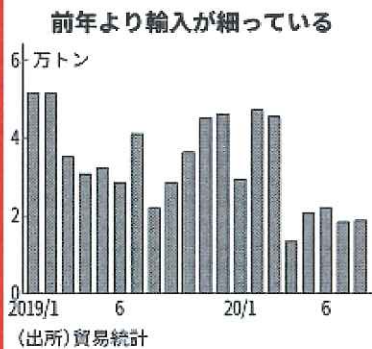
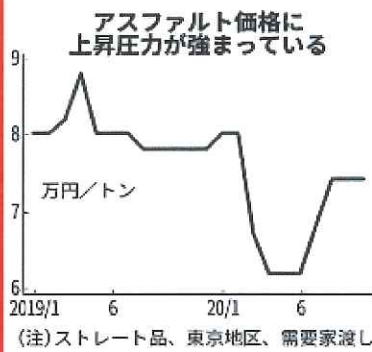


道路舗装材のアスファルトに先高値が強まっている。内需の3割を占める輸入品が中国に流れ、輸入量が4割減った上に単価も上昇したためだ。新型コロナウイルス禍で国内生産が減る一方、道路の補修需要は底堅く、調達が難しくなりつつある。需要最盛期を控え、卸各社は輸入単価や配達費の上昇などコスト増加分を販売価格に転嫁する姿勢を強めている。

指標となるストレート品（東京地区、需要家渡し）の取引価格は現在、1トン7万4千円前後。大口向けでは6万5千円程度の取引もあるようだ。需要が盛り上がる11月～翌年3月を控え、大手道路舗装会社の調達担当者は「タイムリーな仕入れが難しくなってきた」と漏らす。

アスファルトに先高観



輸入量4割減、中国に流出

原油急落を映して下落した。求める卸業者が増え、輸入量は約1万8900トンと前年比14%少ない。4～8月の回復に連動して5月を50万トンとされるストレートアスファルト需要の約3割を占める輸入品が急速に減少した。ここに来て急速な供給逼迫を占める輸入品が急速に減少したことが主因だ。輸入量のほぼ全量が韓国品。貿易統計によると、8月の輸入量は約1万5千トン程度の値上げを

を売っている「燃料商社。め、元売り各社は稼働率をあげられず、アスファルトの供給も細った。一方、内需は堅調だ。日本アスファルト合材協会（東京・中央）によると、東アジアでアスファルト生産量が減ったことも一因だ。韓国では1月からの国際海軍機関（IMO）による船舶燃料の環境規制強化に対応し、製油所の装置改修が進んだ。「アスファルト留分から付加価値の高いガソリンや軽油を生産する動きが加速している」（石油天然ガス・金属鉱物資源機構の竹原美佳氏）

日本ではコロナ禍で航空機燃料など石油製品の需要が急減。国内全体の製油所稼働率は84%と前年より4%ほど低い。稼働率を上げると需要が弱い航空機燃料も作れてしまった

市場では、需給の逼迫は長引くとの見方が多い。アスファルト業界はかねて従業員の高齢化や人手不足といった課題を抱えている。「配送コストもかさんでい

修繕を中心とした国からの道路工事の発注が底堅いと

（山本裕二）

コノコ、米シェールを1兆円買収

【ニューヨーク＝中山修志】米シェール企業のM&A（合併・買収）が相次いでいる。米石油メジャーのコノコフィリップスはシェール大手コンチョ・リンシーシスの買収を発表した。新型コロナウイルスでシェール企業の株価が低迷し、南部の優良資産を取得する好機と判断した。長引く原油安で、生産コストが低い良質な油井を巡る再編が加速している。

コノコは97億ドル（約1兆2000億円）の株式交換によりコンチョの全株式を取得し経営統合する。コンチョは米南部のパームラン鉱区に大規模なシェール資産を持つ。コノコはシェールオイルで同業大手のエクソンモービルやシェブロンに並ぶ規模になる。

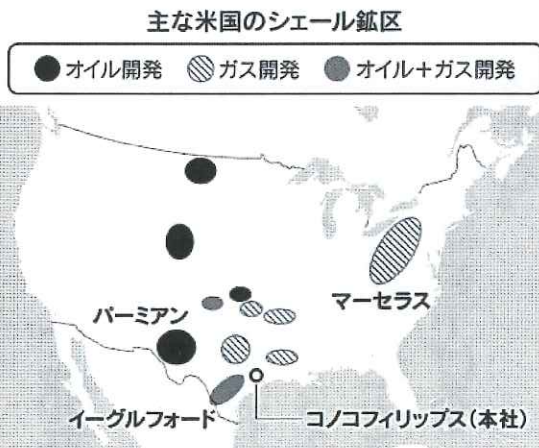
コノコのライアン・ランス最高経営責任者（CEO）は19日の電話会見

油井の質、再編の引き金

続く原油安、コストで選別

で「収益低下とESG（環境・社会・企業統治）の流れに対応する最良の解決策だ」と述べた。統合により年間5億ドルのコスト削減を見込む。

コノコはカナダやオーストラリアに大規模な石油・天然ガス資産を持つが、生産規模でエクソンやシェブロンに半分以上にとどまる。米南部のシ



エル開発でも出遅れ、パーミアンの生産量は日量7万t程度と大手2社に水をあけられていた。コンチョ買収により石油換算の埋蔵量で80億tのシェール資産を取得し、1t30ドル以下のコストで生産できる埋蔵量を230億tに積み増す。ランスCEOは「エネルギー業界はこれまで以上

に規模が重要になる」と述べ、追加のM&Aなどを検討する意向を示した。

米石油メジャーは油価が改善した2018年から生産拡大に転じ、数百億ドルを投じて米国やアジア、アフリカなど各地で資源開発を進めた。だが、コロナ危機で世界のエネルギー需要が縮小し、石油業界の環境が一変した。シェール業界で優位とされるコンチョも時価総額が2年前の3分の1に落ち込んでいた。

M&Aの舞台となっているのがテキサス州とニューメキシコ州にまたがるシェール最大鉱区のパーミアンだ。南部のイーグルフォードや北東部のマーセラスなどに並ぶ米国の一大生産拠点とされる。

シェブロンは約50億ドルの株式交換で7月にパーミアンを拠点とするノール・エナジーの買収を発表。9月に合併を発表したデボン・エナジーとWPPXエナジーも共に同

鉱区の有力業者だ。パーミアンは石油や天然ガスを含むシェール層があり、他の鉱区に比べ生産コストが低いとされる。南部や中西部の他のシェール鉱区の生産量がコロナ危機前に比べて2〜3割下落しているのに対し、パーミアンは9%減にとどまる。米原油先物指標のWTI（ウェスト・テキサス・インターメディアート）が1t40ドル程度と前年を約3割下回るなか、生産コストによる選別が進む。

日本最大の
低温物流ネットワーク

選ばれつづける仕事。

Nニチレイロジグループ

www.nichirei-logi.co.jp

鉱区の有力業者だ。パーミアンは石油や天然ガスを含むシェール層があり、他の鉱区に比べ生産コストが低いとされる。南部や中西部の他のシェール鉱区の生産量がコロナ危機前に比べて2〜3割下落しているのに対し、パーミアンは9%減にとどまる。米原油先物指標のWTI（ウェスト・テキサス・インターメディアート）が1t40ドル程度と前年を約3割下回るなか、生産コストによる選別が進む。

ウメト インフォメーション

2020年 10 月 21 日 担当 小松

出光、ノルウェー油田の一部売却

出光興産は20日、ノルウェー領バレンツ海に持つ油田の鉦区権益の一部を、同国の大手石油会社のルンディンに1億2500万ドル(約131億円)で売却すると発表した。同鉦区は開発中で、まだ商業生産はしていない。権益比率を下げることで、油田の開発コストを削減する。

ウメト インフォメーション

2020年 10 月 22 日 担当 小松

技術・商品

ツイート

文字サイズ 小 中 大

ベターリビング/飛来物衝突試験を開始/高強度建材の開発を後押し [2020年10月21日2面]

ベターリビング（井上俊之理事長）は、窓ガラスやシャッターなど建材の耐衝撃性能を確認する「加撃体発射試験機（エアキャノン試験機）」を使った試験を始めた。台風
の暴風によって屋根瓦など重量物が飛ばされ、家屋が損壊する被害が多発している。試験機を活用することで、高い強度を持つ新たな製品開発を後押しする。

エアキャノン試験機は重さ4キロの角材を毎秒25メートル以上の速度で発射できる空気砲と、発射物の速度を測定する高速度カメラで構成する。JISで定めた「建築用ガラスの暴風時における飛来物衝突試験方法」をクリアしている。

ウメト インフォメーション

2020年 10 月 22 日 担当 小松

企業・経営

ツイート

文字サイズ 小 中 大

鹿島/先端ITゼネコンへの変革を宣言/ビジョン動画を作成 [2020年10月20日3面]



作成した動画の1コマ

鹿島は、最先端ITを駆使したゼネコンへの変革を見据えたビジョンをPRする動画を作成した=写真。先端テクノロジー領域を担うIT技術者の募集ページ (https://www.kajima.co.jp/tech/c_recruit/index.html) で閲覧できる。

=10面に詳しく

「土木をコードで書きかえる」をキーワードに掲げ、土木と先端ITが融合する方向性を提示。鹿島・前田建設・竹中土木JVにより秋田県東成瀬村で施工中の「成瀬ダム堤体打設工事(第1期)」(発注者・国土交通省東北地方整備局)に導入している次世代建設生産システム「クワッドアクセル」などを紹介している。自動化重機によりインフラを構築することで、土木現場を無人の巨大な工場に変えて、人間が遠隔から管理する未来像を描いている。